

経営協議会の学外委員からの御意見に対する取組状況

(令和元年度第4回～令和2年度第3回)

担当課	学外委員からのご意見	現在の取組(対応)状況
施設企画課	<p><令和元年度 第6回経営協議会> 【光熱水費の抑制】 ○光熱水費の抑制に関して、LED照明の導入は進めているか。</p>	<p>建物の新築や改修工事を行うときはLED照明を採用している。現在の設置状況としては、建物全体面積の45% (107,402㎡) がLED化している。 今後も、光熱水費の抑制を図る観点から、引き続き、LED照明の設置を行っていきたい。</p>
総務課	<p><令和2年度 第3回経営協議会> 【説明資料の工夫】 ○説明資料に、専門用語が多いため、もう少し分かり易く説明をする工夫をして欲しい。</p>	<p>説明資料に専門用語がある場合は、用語解説を付記するなど、委員の方が理解しやすいような資料の作成に努める。</p>
研究推進課	<p><令和2年度 第3回経営協議会> 【外部資金の獲得割合】 ○大分大学の外部資金の獲得割合は医学部が多いようだが、他大学で医学部と工学部をもつ大学でも同じような割合なのか。</p>	<p>医学系及び工学系との外部資金の獲得割合を分析できるような信頼性のあるデータ等はないが、総体としては工学系の割合が高いと想定される。 今後、客観的に分析できるようなデータ等については、IRセンターを通じて抽出するなど、別途、提供したいと考えている。</p>
研究推進課	<p><令和2年度 第3回経営協議会> 【科研費の新規獲得策】 ○新規の科研費獲得についてどのような対応をしているか教えて欲しい。</p>	<p>科研費獲得に向けた取り組みとして、次の(1)～(2)の取組を行っている。</p> <p>(1) 科研費申請補助体制の構築</p> <p>①全学研究推進機構 URA チームによる申請書類記載内容のピアレビュー、ブラッシュアップ等の実施、早期から科研申請に取り組む研究者へ向けたプレ科研費説明会の開催</p> <p>②研究推進課と URA チームによる科研費説明会の開催(公募内容の変更点、近年の科研採択傾向の分析、申請書の記載内容に関する説明)</p> <p>(2) 学長戦略経費を用いた研究支援</p> <p>①重点領域研究推進プロジェクト(学内公募型研究支援事業)</p> <p>重点領域研究に対し、戦略的な研究費の配分を行い、大学の強み・特色を明確にするためのプロジェクト、さらに他に類をみない新しい発想の芽生えや今後の大型研究費の獲得に繋がる研究を支援する。</p> <p>○令和2年度支援実績</p> <p>【重点研究支援】 申請 8 件 採択 5 件 支援金総額 19,200 千円</p> <p>【若手研究支援】 申請 33 件 採択 27 件 支援金総額 13,273 千円</p> <p>②ステップアップ支援・ヤングリサーチャー支援(学内公募型研究支援事業)</p> <p>基盤研究(B)又は基盤研究(C)及び若手研究に応募したが、今一步採択に及ばなかったもののうち、不採択Aの研究者に対し、次年度採択を目指し支援を行う。</p> <p>○令和2年度支援実績</p> <p>【ステップアップ支援】 基盤研究(B) 申請 8 件 採択 2 件 支援金額計 2,000 千円</p> <p>【ヤングリサーチャー支援】 基盤研究(C)・若手研究 申請 21 件 採択 4 件 支援金額計 1,200 千円</p> <p>③BURST 認定チーム支援</p> <p>BURST(大分大学認定研究チーム)として認定している研究チームに研究費を配分することで、より重点的に支援を行う。</p> <p>○令和2年度支援実績 22 件 9,304 千円</p>

担当課	学外委員からのご意見	現在の取組(対応)状況
研究推進課	<p><令和2年度 第3回経営協議会> 【コロナ禍の寄附金への影響】 ○コロナの影響で寄附金の獲得に影響が出てきているのか。</p>	<p>コロナ禍による寄附金への影響を調べるため、下記の2つの期間内に分けて、寄附金の受入件数・金額の比較を行った。</p> <p><コロナ禍流行前>令和元年3月～令和元年10月 件数 743 金額 384,177千円</p> <p><コロナ禍流行後>令和2年3月～令和2年10月 件数 647 金額 324,624千円</p> <p>コロナ禍流行前と比較して、コロナ禍流行後期間においては、件数で96件、金額にして59,553千円の減少となっている。</p>
総務課	<p><令和2年度 第3回経営協議会> 【コロナ禍の影響による変化】 ○コロナ禍の影響は、附属病院の減収などマイナスの面が多いと思うが、逆に、大学にとって良い方向への転換や、新たな可能性が芽生えてくる予兆はないか。</p>	<p>今回、全国の病院でクラスターが多発したことから、AIやロボット技術を応用した感染予防策の開発が急務となっている。令和5年度に設置を予定している医学部新学科の臨床医工学コースでは、医療用ロボット等の研究・開発に寄与することを目的としているため、本コースの社会的ニーズが高まったと言える。</p> <p>また、今回の世界的なパンデミックにより、感染症対策は一国だけでは対応できないことが浮き彫りとなった。本学が来年度設置予定のグローバル感染症研究センターでは、アジアを中心とした感染症に関するグローバルな研究展開を構想しており、コロナ後の世界において、同センターの担う役割は、さらに重要なものとなったと言える。</p> <p>教育面に関しては、前期は大半の授業をオンラインで実施したことにより、結果的に、教員が多様な授業形態を実践するためのスキルアップにつながったことはプラス材料と言える。</p>
教育支援課	<p><令和2年度 第3回経営協議会> 【大学教育の今後の方向性】 ○政府では、デジタル庁の設置など、民間会社も含めデジタル化に取り組んでいく方向である。大学教育の今後の方向性として、データサイエンス教育が必要であると考えられる。また、AIやロボットにはできない仕事をするため、リベラルアーツを学ぶことも必要だと考える。これらに対応できる人材を従来のカリキュラムで養成できるのか。</p>	<p>現在、教育の内部質保証を推進する教育マネジメント機構を令和3年2月設置に向け準備を進めている。これに合わせて、コロナ禍で加速したICTの活用による授業の最適化をより促進すると共に、全学的なデータサイエンス教育の導入だけでなく、これまでの教養教育カリキュラムを再構築して、多様な社会で生きるために必要な基礎学問としてのリベラルアーツ教育の拡充を行う予定である。この新しい教養教育は、機構内に設置するセンターが統括して企画・実施する体制とし、全学的かつ継続的な教育の体制とする。</p>